

様式4 取組内容詳細個票

			②フォローアップ 項目
			D
①資料番号	4-1	担当部署	都市建設部 都市計画課
③取組方針	3-4-① 快適・賑わうまち		
④取組内容	(a)おびひろまち育てプランの推進と中心市街地活性化の具現化		
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果	中期的な取組の効果	長期的な取組の効果
	～2023年	2030年	2050年
	-	-	-
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)			
<p>人口増を背景とした拡大型の都市計画から、蓄積された社会基盤を有効活用する集約型都市構造に転換することにより、都市の活力保持や中心市街地の活性化を促し、環境への負荷を抑えた持続可能なまちづくりを進める。</p>			
⑦見込みの前提			
<p>取り組みに起因するCO₂削減量の把握ができないため、算出しない。</p>			

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果 ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	おびひろまち育てプランの推進	-		
2020年	おびひろまち育てプランの推進	-		
2021年	おびひろまち育てプランの推進	-		
2022年	おびひろまち育てプランの推進	-		
2023年	おびひろまち育てプランの推進	-		
2024年以降				

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明

様式4 取組内容詳細個票

		②フォローアップ 項目	
		C・D	
①資料番号	4-2	担当部署	保健福祉部 高齢者福祉課
③取組方針	3-4-① 快適・にぎわうまち		
④取組内容	(b)環境にやさしい公共交通の利用促進(高齢者おでかけサポートバス事業)		
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果	中期的な取組の効果	長期的な取組の効果
	～2023年	2030年	2050年
	282.5	282.5	282.5
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)			
<p>70歳以上の高齢者のうち、申請された方にバス無料乗車証を交付している。公共交通機関であるバスの利用を促進することで、CO₂排出量を削減する。高齢者バス無料乗車証を利用できるバスは、帯広市内の路線バス(十勝バス、拓殖バス、あいのりバス、あいのりタクシー)限定で、限度額なし。</p> <p>2017年度末時点の対象者数 33,874人 2017年度末時点の交付者数 21,027人 2017年度末時点の交付率 62.1% 2017年度 利用者数(人/延) 942,181人</p>			
⑦見込みの前提			
○自家用車と比較したバス利用によるCO ₂ 削減の前提			
<p>自家用車と比べたバス利用によるCO₂削減量 1人あたりのバス利用平均額 285円 1人あたりのバス平均移動距離数 3.6km/人 1人あたりのCO₂排出量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自家用車 141g-CO₂/km ・バス 67g-CO₂/km <p>よってバスの方が74g-CO₂/km少ない(国土交通省「輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)(2016年度)」) 高齢者バス無料乗車証の年間利用者数942,181人×3.6km×74g=250,997,018.4g=年間約251.0tの削減効果</p> <p>2016年度と比較した2017年度の延利用人数は約102%増となっていることから、 2023年度まで年間CO₂削減率は102%増で推移していくものとする。 2017年 942,181人×3.6km×74g-CO₂/km÷1,000,000=251.0t-CO₂</p>			

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果 ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	高齢者バス無料乗車証の交付	(261.1)	251.0t-CO ₂ × 102% × 102%	(261.1)
2020年	高齢者バス無料乗車証の交付	(266.3)	261.1t-CO ₂ × 102%	(266.3)
2021年	高齢者バス無料乗車証の交付	(271.6)	266.3t-CO ₂ × 102%	(271.6)
2022年	高齢者バス無料乗車証の交付	(277)	271.6t-CO ₂ × 102%	(277)
2023年	高齢者バス無料乗車証の交付	(282.5)	277.0t-CO ₂ × 102%	(282.5)
2024年以降				

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明

〈2030年までの効果〉

$$277.0\text{t-CO}_2 \times 102\% = 282.5\text{t-CO}_2$$

〈2050年までの効果〉

$$277.0\text{t-CO}_2 \times 102\% = 282.5\text{t-CO}_2$$

様式4 取組内容詳細個票

②フォローアップ
項目
C・D

①資料番号	4-3	担当部署	商工観光部 商業まちづくり課	
③取組方針	3-4-① 快適・賑わうまち			
④取組内容	(b)環境にやさしい公共交通の利用促進(あいのりタクシー・バス運行事業)			
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果	中期的な取組の効果	長期的な取組の効果	
	～2023年	2030年	2050年	
	14.8	14.8	14.8	
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)				
<p>【農村地区におけるデマンド式乗合タクシー及びバスの運行】 大正、川西地区において、乗合タクシー(あいのりタクシー)及び乗合バス(あいのりバス)を運行する。運行の仕方は、農村部の地理的な特徴や効率的な運行、環境負荷に配慮し、デマンド(事前予約)式としている。</p> <p>【帯広市地域公共交通網形成計画に基づく利用促進】 帯広市地域公共交通網形成計画に基づき、マイカーからバスへの転換を目的に、環境問題等をテーマとした出前講座の実施や、天ぷら油等の廃食用油をリサイクルして製造したバイオディーゼル燃料(BDF)を路線バスの燃料として活用する仕組みを通じて、市民の環境負荷低減に対する関心を高めるとともに、公共交通の利用を促進する。</p> <p>1.出前講座(交通環境学習)の実施 小学生および高齢者を対象とし、運輸と地球温暖化の関係やBDFの精製・活用方法をテーマに公共交通の優位性について啓発を行うほか、BDFで走行するバスの体験乗車を行う。</p> <p>2.BDFバスの運行及びバスによる廃食用油の回収 現在、帯広市内では3台のBDFバスが運行されている。また、路線バス全車両、都市間バス、空港連絡バス、一部のスクールバスに回収ボックスを設定し、廃食用油の回収を実施している。</p>				
⑦見込みの前提				
<p>○自動車と比較した「あいのりタクシー」及び「あいのりバス」利用によるCO₂削減の前提 延利用人数(平成29年度実績値) あいのりタクシー 5,780人、あいのりバス 11,356人 一人あたりの平均移動距離(〃) あいのりタクシー 16.3km/人、あいのりバス 9.3km/人 一人あたりの二酸化炭素排出量は、自家用自動車141g-CO₂/km、バス67g-CO₂/kmでバスの方が74g-CO₂/km少ない。 (国土交通省「輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)(2016年度)」)</p> <p>年間の温室効果ガス削減量 ・あいのりタクシー 5,780人×16.3km/人×74g-CO₂/km = 6,971,836g-CO₂ ≒ 7.0t-CO₂ ・あいのりバス 11,356人×9.3km/人×74g-CO₂/km = 7,815,199.2g-CO₂ ≒ 7.8t-CO₂ よって7.0t-CO₂ + 7.8t-CO₂ = 14.8t-CO₂</p>				

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果 ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	あいのりタクシー・バスの運行	(14.8)	7.0t-CO ₂ + 7.8t-CO ₂	(14.8)
2020年	あいのりタクシー・バスの運行	(14.8)	7.0t-CO ₂ + 7.8t-CO ₂	(14.8)
2021年	あいのりタクシー・バスの運行	(14.8)	7.0t-CO ₂ + 7.8t-CO ₂	(14.8)
2022年	あいのりタクシー・バスの運行	(14.8)	7.0t-CO ₂ + 7.8t-CO ₂	(14.8)
2023年	あいのりタクシー・バスの運行	(14.8)	7.0t-CO ₂ + 7.8t-CO ₂	(14.8)
2024年以降				

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明

〈2030年までの効果〉

$$7.0t-CO_2 + 7.8t-CO_2 = 14.8t-CO_2$$

〈2050年までの効果〉

$$7.0t-CO_2 + 7.8t-CO_2 = 14.8t-CO_2$$

様式4 取組内容詳細個票

		②フォローアップ 項目	
		C	
①資料番号	4-4	担当部署	都市建設部 都市計画課
③取組方針	3-4-① 快適・賑わうまち		
④取組内容	(c)自転車・歩行者利用環境の整備(自転車、歩行者道のネットワークなどの利用環境整備の促進)		
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果	中期的な取組の効果	長期的な取組の効果
	～2023年	2030年	2050年
	-	-	-
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)			
<p>自転車は、手軽でかつ自由に移動可能なことから、市民に最も身近な交通手段として、子供から高齢者まで幅広く、通勤・通学、買い物、レジャー等、多様な目的で利用されている。</p> <p>帯広の自然環境や地形を考慮すると、自転車利用の潜在需要は大きく、環境負荷の低減や健康増進の観点から自転車が見直されており、今後、自転車が重要な交通手段の一つになるものと考えられることから、引き続き歩行者と自転車の通行空間の分離等、歩行者や自転車が安全かつ快適に移動できる走行空間の整備に努める。また、駐輪施設等の設置により、自転車が使いやすい環境づくりを推進する。</p>			
⑦見込みの前提			
<p>取り組みに起因するCO₂削減量の把握ができないため、算出しない。</p>			

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果 ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	利用環境整備	-		
2020年	利用環境整備	-		
2021年	利用環境整備	-		
2022年	利用環境整備	-		
2023年	利用環境整備	-		
2024年以降				

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明

様式4 取組内容詳細個票

		②フォローアップ 項目	
		D・E	
①資料番号	4-5	担当部署	市民活動部 安心安全推進課
③取組方針	3-4-① 快適・賑わうまち		
④取組内容	(b)自転車・歩行者利用環境の整備(交通安全教育の推進)		
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果	中期的な取組の効果	長期的な取組の効果
	～2023年	2030年	2050年
	-	-	-
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)			
<p>帯広市は、市民の交通安全意識の醸成・向上を図ることを目的として、学校、保育所、幼稚園、老人クラブ等を対象とした交通安全教室及び研修会等を実施しているが、近年、環境保護に関する市民意識の高揚等により、自転車の利用が増加していると思われるため、この点を考慮した内容を盛り込むなど、効果的に実施するものである。</p> <p>およそ、年間500回、延べ38,000人を対象として実施</p>			
⑦見込みの前提			
<p>取り組みに起因するCO₂削減量の把握ができないため、算出しない。</p>			

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果 ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	交通安全教室の実施	-		
2020年	交通安全教室の実施	-		
2021年	交通安全教室の実施	-		
2022年	交通安全教室の実施	-		
2023年	交通安全教室の実施	-		
2024年以降				

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明

様式4 取組内容詳細個票

		②フォローアップ 項目	
		C・E	
①資料番号	4-6	担当部署	商工観光部 観光課
③取組方針	3-4-① 快適・賑わうまち		
④取組内容	(d)サイクルツーリズムの推進		
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果	中期的な取組の効果	長期的な取組の効果
	～2023年	2030年	2050年
	-	-	-
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)			
<p>健康増進や誘客に「サイクルツーリズムの推進」が注目される中、市においても、十勝・帯広の魅力と強みを活かした体験・滞在型観光の推進を図るため、誘客のコンテンツとしてサイクルツーリズムを推進している。これまで関係団体と連携して、サイクルルートの設定や、ホームページ・プロモーションビデオ製作による情報発信、立ち寄り施設の整備などを行ってきた。</p> <p>今後はサイクルガイドの育成やネットワークづくりなど、地域全体での受入態勢の強化を図る。</p> <p>また、管内交通の結節点となっている「バスターミナルおびくる」に設けた観光のPRスペースなどを活用して、食・アウトドア・サイクルを通じた地域の観光情報発信に取り組み、体験・滞在型観光を推進する。</p>			
⑦見込みの前提			
<p>取り組みに起因するCO₂削減量の把握ができないため、算出しない。</p>			

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果 ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t・CO ₂)
2019年	市民による取り組みの支援	-		
2020年	市民による取り組みの支援	-		
2021年	市民による取り組みの支援	-		
2022年	市民による取り組みの支援	-		
2023年	市民による取り組みの支援	-		
2024年以降				

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明